

各地区業況アンケート結果（29年10月調査分）

（29年10月26日）

全国鉄鋼販売業連合会

10月24日締切で、当会役員151名に対しこのアンケートを行ったところ77名の回答があり（回答率51.0%）その結果が下記のとおりまとめましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※ $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

1. 数量・金額ともDI値増加

問1】貴社の9月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	17	14	32	9	4	76	79
比率	22%	18%	42%	12%	5%	DI+41	DI+27
売上金額/前年同月比	22	21	25	5	3	76	79
比率	29%	28%	33%	7%	4%	DI+71	DI+58

2. 7割弱が黒字

問2】貴社の9月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	27	23	19	5	1	75	79
比率	36%	31%	25%	7%	1%	DI+93	DI+49

3. 民間建設向け中心に需要はやや増加傾向へ

問3】貴社の営業窓口から見て10月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向	1	23	30	3	2	59	+31	+3
民間建設向	2	33	25	2		62	+56	+22
自動車向	2	17	20	2		41	+46	+23
その他需要家向	3	28	31	4		66	+45	+14
仲間取引		21	39	5		65	+25	+8
計	8	122	145	16	2	293	+40	+14
比率	3%	42%	49%	5%	1%			

4. 今後も多少の期待感

問4】貴社における向う11月から1月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	7	46	18	4	2	77	77
比率	9%	60%	23%	5%	3	DI +68	DI +94

5. 需給は均衡状態へ

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	品種別	A	B	C	D	E		10月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-24	-38	-28	-19	-26	-21	-28	-17	-31	-24	-29	-20	鉄筋用丸鋼		2	23	4	2	31	-19
-14	-17	-11	-5	-3	-11	-7	-8	-14	-3	-13	-13	構造用丸鋼		1	24	5		30	-13
-3	-8	-7	-5	-3	-7	-7	-7	-11	-12	-9	-5	平角鋼			32	3		35	-9
16	26	58	38	26	21	7	4	-18	0	0	15	H形鋼		9	26	1		36	22
4	0	18	0	-23	-4	0	-5	-16	-26	-13	0	コラム		7	15	2		24	21
-10	7	6	2	-6	-3	-3	-7	-10	-16	-13	0	小形山形鋼			35	3		38	-8
-10	7	11	7	-6	-12	-6	-10	-26	-19	-16	-5	中形山形鋼		2	32	4		38	-5
-10	3	15	10	3	-12	-9	-10	-24	-22	-5	3	溝形鋼		3	30	4		37	-3
-14	-13	-11	-9	-20	-15	-11	-4	-19	-20	-13	-10	軽量形鋼C形		2	25	3	1	31	-10
-20	-20	-20	-12	-19	-10	-9	0	-9	-20	-5	-18	軽量形鋼広巾			18	3		21	-14
-23	-15	4	36	32	39	28	17	9	7	3	23	冷延薄板	1	1	24	3		29	0
-19	-6	-3	21	22	16	17	0	3	-12	-9	11	熱延薄板	1	4	30	1		36	14
-22	-7	26	62	42	58	56	30	16	-3	-6	35	表面処理鋼板	2	9	23	2		36	31
-22	-18	33	100	89	85	57	52	32	9	14	45	酸洗鋼板	1	10	23	1		35	31
-23	-9	3	30	38	23	14	0	-13	-11	-5	10	中板		8	29	4		41	10
-23	-6	-5	18	16	10	-3	-6	-8	-19	-19	-5	厚板		7	26	6		39	3
-5	-7	-11	25	22	5	-6	-6	-19	-7	-18	0	極厚板		3	14	2		19	5
-11	-8	-14	-11	-11	3	-7	0	-6	-11	-9	-6	縞板		5	25	4		34	3
-23	-20	-15	-16	-18	-23	-6	-19	-16	-28	-14	-15	中径角		4	31	3	1	39	-3
-17	-16	-15	-16	-8	-12	0	-9	-15	-23	-13	-16	ガス管黒		6	31	4		41	5
-15	-17	-13	-11	-12	-9	3	-9	-11	-21	-18	-20	構造用鋼管		3	32	2	1	38	-3
-14	-8	2	11	6	7	4	-1	-9	-14	-10	1	計	5	86	548	64	5	708	3

6. 流通はメーカー値上げの転嫁に引き続き注力

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	倉出し販売は増加し上向いている。歯抜け品種も増えてきている。メーカー値上げの転嫁を急いでいるが、積み残し分まで転嫁が進んでおらず、引き続き唱えアップを継続していく。
	B	農業関連はキャバを超えて出ているため、工期遅れが確実となっている。真冬の工事になりそう。
	C	道央圏以外の大型物件は少なくなっている。通常年から見ると秋口の仕事は少ない。丸棒価格はさらに一段上って高止まりになっている。あまり良い第3四半期ではない。
東北	A	仕入価格は確実に上ってきているが、需要はいまひとつパツとしない。秋需に期待大である。一次加工も思ったほど増加していない。債権回収不安も少しずつ出てきている。与信管理に注意している。
	B	需要動向に勢いはない。受注も芳しくない。そこか(即納・小口・加工)に徹して少しずつ利益を積み重ねている。
	C	メーカー値上げを転嫁したく動いているが、今ひとつ需要がついてこない。その反面、ファブは山積みが多く、忙しい状況で県外からの受注が結構入っている。
	D	丸棒の受注、引合いともに少ない。
	E	エネルギー関連と東京関連の仕事をしている会社は忙しそう(材料加工業)。流通業者は値上げしているが、口銭確保が難しい状況である。
新潟	A	荷動きは多少上向いてきた。この機にしっかり値上げに動きたい。
	B	小ロット、短納期の引合いは増えてきた。
	C	9月同様、10月も低調に推移している。製鋼メーカーと問屋の繁忙感の差がますます大きくなっている。
	D	ここにきて暫く引合いが増加し、荷動きも良くなってきた。今後期待したい。
	E	暖房機関連の需要は増加傾向、建材関連は横ばい。トラック特需でピークアウトしているが、自動車は全体的に秋需で増加を見込む。価格面は踊り場状態。ユーザーや地域により温度差はあるが、値上げは浸透しきれていない。早期に積み残し分の転嫁を目指す。
	F	鉄筋用丸鋼の需要が一番ない。長岡地区の市況が悪い。
	G	荷動きは実感として変動なし。単価アップに苦戦している。多少、9月に比して動きは散見される。
川口		一部の顧客の需要が大幅増である。一時的なものと思われ、顧客数自体は減っている。
神奈川	A	業種によって濃淡はあるが、徐々に予定されていた案件が出されている。あとはメーカー値上げの価格転嫁を急ぎたいが厳しい状況である。
	B	業種によってはかなり好調な客先も見受けられる。加工業者も付加が高い状況が続いている。但し、材料の荷動きは連動しない。
東京	A	神戸製鋼所の銅、アルミ事業部門の不適切業務の発覚で鉄鋼事業部門の関連商品の問い合わせが多数ある。
	B	タイトな状態が続いている。メーカー値上げの転嫁を引き続き実行していく。

東京	C	市況の上げが続けばよいが、需要が出てくるかが問題。
	D	鉄筋店売りの秋需は11月と感じる。
	E	(鋼管)9月以降、日割出荷は徐々に増加傾向にあり、急伸はないものの市況も強含み推移となっている。
	F	熟延黒皮品(無規、SS)がやや手配しづらい状況。
	G	各メーカーの値上げ実施後の材料が少しずつだが、入荷してきている。客先への価格転嫁が急務となっている。10月に入ってまとまった見積りも来ているので今後期待。
	H	国内高炉メーカーの強固な姿勢が漸く市場に浸透し始め、価格転嫁の環境は整いつつある。とはいえ、荷動きが良いわけではないので、この先も慎重な価格交渉になるだろう。販売先によって繁閑の差が拡大している。
	I	表面処理鋼板は高炉メーカーのトラブルと申込みカットで更にタイトになると思われる。今ある在庫を大切に販売する。安値や店売りに供給は出来ない状況になってきた。
	J	都心の民間大型建設向が堅調で持続性がある。公共工事が久しぶりに増加(庁舎新築など)メーカーの値上げは長期化から追加値上げへ。今まで上値の重かった店売り、定尺販価もようやく転嫁の動きが活発になり始めた。
	K	主力の自動車、トラック、建機、建築など幅広く需要好調を維持しているが、仕入価格の単価が上昇し苦戦している。在庫もタイト感があるので、上手く転嫁していきたい。
静岡	A	地場有力ファブへの材料供給は大手流通をもってしても、一次加工からデリバリーまで目一杯である。単価は東部、中部、西部の地域格差があると思われる。メーカー引受量調整の影響がある。一次店、二次店の販売姿勢は残念ながら統一感はない。鉄鋼加工製品のエンドユーザーである産パレ、広告柱などの発注元は材料の大幅値上げに疎い。発注元から鋼材単価の推移の説明を求められた。隣国などの競争先が多いということか。まだまだ厳しいと言える。底堅いといわれている鉄鋼需要の実像は、これからなのか分からない。信用不安、倒産事件は少ないと評されているが、建築、土木、金属加工関連業者は続いて発生している。
	B	薄板の入荷遅れが酷くなっている。市中在庫のタイト感はまだ明確に感じられない。建築は流通(一次・二次加工)ファブともに稼働率は高い状況である。設備、製缶関連もライン移転、新設各種パレットの発注が見られる。
石川	ある高炉系列の薄板販売店の値戻し遅れが目立つ。技能職人の不足感が大きくなっている。時給アップ、給料アップ、週休2日完全実施でフリーターから有能な人を吸い上げて採用することを思い切った企業は勝つと思う。	
富山	A	好調なバス、トラック向けも減少傾向。公共、民間向けとも低調である。土木、道路向が横ばい。都会向けの需要が製鉄メーカーの言うほどに多く出てくることを期待。
	B	当地区では建築物の出件数が急に落ちてきた。メーカー、首都圏との建築景気の温度差をすごく感じる。メーカー値上げ分の転嫁は未完である。今後も追いつけない。
福井	商社からの県外物件は多くあり、Mグレード以上のファブは引き続き忙しい状況。鋼材販売単価はキロ5円程上がった。	

岐阜	A	産業機械関連も需要がやや上向き、微増傾向が見られる。また、建築関連中心に需要は上向いてきており、下半期に期待がもてる。運送経費は需要の短納期から増加している。
	B	売上、数量ともにやや忙しくなってきたが、それ以上に日々の業務が多く疲れる。人員、人手不足なのだろうか。特急品が多いのだろうか。ユーザーである製造業も同様で新人が入って基本を教えている所をよく見る。そして、すぐいなくなる。
愛知	A	前年比数量は変わらないが、値上げ実施により売上金額はその分上っている。順調に秋需は出ているのではないかと思う。メーカーが値上げを唱えているが、自動車向け価格の値下げが市況価格の押し上げにブレーキをかけているように思う。
	B	パレットは9月少なかったが、10月は増加が見込まれる。鉄鋼関係の設備は出てきた。自動車関係も部品メーカーの好調を受けて設備が出ているところもある。建築は中小案件が活発に出ており、年内は順調である。RCはメーカー値上げ後、引合いが低調になっている。
	C	それなりに物件は動いているので期待感がある。値上げに対する価格転嫁がやはり遅れている。足元の収益の厳しさの原因は価格転嫁の遅れにある。目先は販売価格の上げが第一になってきた。
	D	集購は前年同月比横ばい。増加から横ばいになった。プロパーの自動車向けと鋼製家具は前年同月比マイナスとなった。設備関係は単月でも通期でも好調を維持している。陳列向けは単月、横ばいだが、通期は後退している。メーカーはコイル事情がタイトであるとの説明だが、市場ではピンとこない感じである。スクラップが下り始め、先行きの見通しが予測しづらい。
大阪	A	8月後半からのメーカー価格上昇による先高先行手配から9月に入り実需による荷動きとなっている。荷動きは10月に入っても、引き続き堅調を推移するものと思われる。10月11月は例年需要が多い時期だけに上昇した仕入価格の未達分の転嫁を急がなければならない。
	B	大型物件はないが、中小物件を中心にまずまずの動きである。特に住宅基礎、S造アパート、マンションの基礎は底堅い動きが続いている。ここへきて鉄鋼製品の値上り、生コンの値上り等により予算が合わなくなり、見直し、キャンセル、延期といった物件も出てきている。
香川		秋の需要期に入る。土木に期待しているが、現状は思ったより引合いは少ない。鉄骨案件は多くなく、ほどほどという感じである。市場に値上げを浸透させたい。
北九州	A	メーカー値上げによる先高感により明細は入ってきているが、採算面は思ったより低調。メーカーからの値上げ分は販売価格に転嫁が急務である。先々の仕事はあるが、人手不足により全体的な動きは鈍い。
	B	品種によってバラツキはあるが、引合い、受注とも増加傾向。相場も上昇しているが、メーカーのペースには追いつかず、さらなる上乘せが必要である。加工の引合いは旺盛で加工先の確保に苦労している。来年に向け、タイト感は一層増す様子。
	C	小口受注が増えてきている。見積りも増えて中、鋼材は各品種、歯抜けが出ていたとのことなので、メーカー値上げ分を少しでも価格転嫁して行きたい。
福岡	A	9月度中旬以降から見積書、引合いが増えてきた。自動車、半導体関連は来年まで受注確保している。また、建築関係の仕事も増えてきている。ドブメッキも納期がかかるため調整が大変である。10月以降も忙しくなる状況。受注は短納期が求められているので自社だけでなく協力会社と連携して受注対応していきたい。倒産については今のところない。

福 岡	B	(溶断) 下期より遅れていた建築案件が出てきており、10月から繁忙になっている。
	C	某高炉メーカーの10～12月契約店売りの申込み5割カットや神戸製鋼所の改ざん以降、顧客からの在庫確保の相談、通常取引が少ない顧客や仲間売りの問い合わせが増えている。実需として、工事案件は動き出しているものの現場の人手不足等で工事が遅れている状況。エンドユーザー向けの価格は実需と物のタイト感が出てくれば、もう一段階上られる状況となりつつある。